

FURUSATO Vitalization

June.2011

vol.104

インタビュー 社長に聞く

美味しいお菓子を提供し、
笑顔の輪をつくる

(株)あわしま堂

代表取締役社長 木網憲和氏

指定管理者紹介

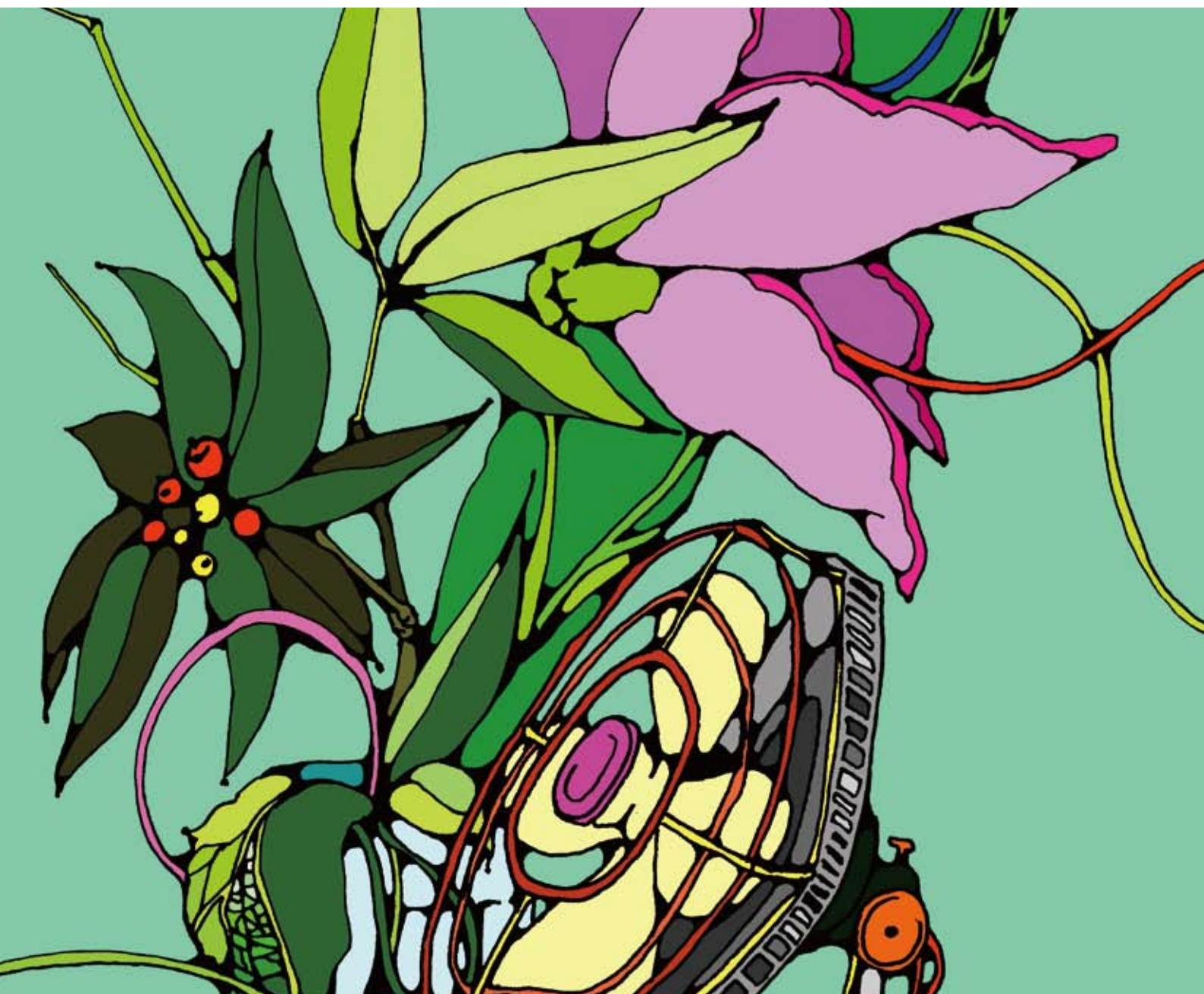
多くの文化事業で培った絶妙な事業運営の
ノウハウで来館者をファンにする

サントリーパブリシティサービス(株)

小椋 寛氏

平成22年度

第2次ふるさと融資予定事業について
(地域総合整備資金貸付)



財団法人
地域総合整備財団〈ふるさと財団〉

この情報誌は、**宝くじ**の社会貢献広報事業として作成されたものです。





C O N T E N T S

- 01 巻頭言
「地域発展への貢献」に向けて
秋田銀行 頭取 藤原清悦
- 02 インタビュー 社長に聞く
美味しいお菓子を提供し、
笑顔の輪をつくる
—— 西日本最大級の菓子メーカーの経営の秘訣とは ——
株式会社あわしま堂 代表取締役社長 木網憲和氏
- 08 指定管理者紹介
多くの文化事業で培った
絶妙な事業運営のノウハウで
来館者をファンにする
—— 魅力ある企画を次々と提案するノウハウとは ——
サントリーパブリシティサービス株式会社 小椋 覚氏
- 14 東京、大阪で「自治体PFIセミナー(基礎編)」を開催
- 16 平成22年度
第2次ふるさと融資予定事業について
(地域総合整備資金貸付)
- 20 新分野進出への取り組み
大青工業株式会社 代表取締役社長 服部國彦
- 23 新分野進出等アドバイザー派遣事業 活用例
十日町市・株式会社夢妻有
- 26 「地域貢献企業の会」会員企業紹介
株式会社紀文 飛騨高山美術館／株式会社プラザハウス
- 28 「地域再生人材相談事業」報告
愛知県常滑市／宮崎県えびの市
- 30 新刊紹介
ふるさと再生 ～架け橋を創る人たち～ 坪田知己 著
- 31 特別寄稿
財団事業で支援された
地方都市再生プロジェクトが
MIPIMで最優秀賞を受賞
都市計画家 西郷真理子
- 32 財団日誌

お見舞い

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により災害を受けられた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。
当財団としても今後の復旧と復興に向けて全力を傾けて努力してまいります。

3月11日に発生した「東日本大震災」においては、東北地方を中心に甚大な被害が生じており、先ずもって犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申しあげますとともに、被災された方々には、心からお見舞い申し上げます。

このたびの震災により、当行の取引先においても、家屋・事務所・工場の倒壊などの直接的被害や、企業

巻頭言



秋田銀行 頭取 藤原清悦

「地域発展への貢献」に向けて

考え、「地域の発展なくして当行の発展はない」ということを肝に銘じ、地域に根差す企業としての使命を全うしていきたいと考えております。

さて、当行では、「輝きと存在感を持って、お客様と地域から圧倒的に支持されるとともに、地域発展に貢献できる銀行」を中期的に目標とする姿に掲げ、これを実現するため、中期経営計画

ました「地域活力開発室」です。「地域活力開発室」は、農業などの基幹産業および関連産業の商流拡大、医療・介護等の成長期待産業の振興などを通じ地場産業の育成・活性化による地域の持続的な成長の促進を目指すとともに、個別企業に対する徹底的な課題解決・業績向上支援を行うことで地域発展への貢献を実現することを使命としております。この

いたしました「海外ビジネスサポート室」です。「海外ビジネスサポート室」は、海外への販路拡大支援、地域産業の国際化を目的とし、海外取引に関する情報の提供、海外ビジネスマッチング支援、輸出入取引決済事務などの貿易取引サービスの提供などを行っております。特に、中国との取引に関する案件が多いことから、秋田県出身者が代表を務める「北京中秋共創商貿有限公司」と業務提携し、秋田県企業の中国取引に対する支援を強化しているところでもあります。

秋田県では、「ふるさと秋田元氣創造プラン」を策定し、新エネルギー関連、環境・リサイクルなどの「戦略産業の創出」、農業・商業・工業・観光業が連携し、秋田の食、農業、観光を丸ごと売り出す「セル・アキタ」などの具体的な施策にかかる取り組みを強化しているところです。

「あきぎん Evolution (2nd Stage)」を策定いたしました。

これは、22年度から24年度までの3年計画であり、「収益の増強」、「組織の強化」および「地域発展への貢献」を重点方針としており、ここで、「地域発展への貢献」に向けた2つの施策をご紹介します。

1つ目は、22年6月に設置いたし

開設いたしました。当センターには、当行行員のほか、あきた企業活性化センターの販路開拓アドバイザーが勤務し、首都圏で営業活動を展開する秋田県企業との個別相談に応じるほか、販路拡大アドバイザーが有する首都圏企業約750社とのネットワークを活用し、商談をセットするなどの支援を行っております。

2つ目は、同じく22年6月に設置

いたしました「海外ビジネスサポート室」です。「海外ビジネスサポート室」は、海外への販路拡大支援、地域産業の国際化を目的とし、海外取引に関する情報の提供、海外ビジネスマッチング支援、輸出入取引決済事務などの貿易取引サービスの提供などを行っております。特に、中国との取引に関する案件が多いことから、秋田県出身者が代表を務める「北京中秋共創商貿有限公司」と業務提携し、秋田県企業の中国取引に対する支援を強化しているところでもあります。

活動の停滞にともなう売上減少などの間接的被害を受けた先が数多く存在します。このような状況のなか、当行では、本業の金融支援にとどまらず、「震災対応プロジェクトチーム」を発足させ、特別相談窓口の設置や節電への取組み、県内への避難者に対する支援活動などを行うなど、さまざまな支援に取組んでおります。今後も「何ができるのか」を全員で

美味しいお菓子を提供し、 笑顔の輪をつくる

——西日本最大級の菓子メーカーの経営の秘訣とは——

株式会社あわしま堂
代表取締役社長

木網憲和氏



インタビュー ● 社長に聞く



みかん畑が点在する潮風の岬、八幡浜。
その自然豊かな地で80年以上も続く和洋菓子メーカーがある。
西日本の約4000店のスーパーマーケットで、
約120種類のお菓子を販売する(株)あわしま堂の
企業理念は「美味しさづくり 笑顔づくり」。
1日約110万個生産する西日本最大級の菓子メーカーの
経営の秘訣を木網憲和社長にうかがった。

いち早くお菓子づくりの 機械化に取り組む

創業は1927年(昭和2年)
ということ、80年以上の歴史を刻
まれています、創業者は和菓子づ
くりの職人だったのでしょうか？

木網 創業者は私の父の木網勝三郎
ですが、和菓子の職人ではありません
。大正時代にアメリカに渡った父
が、現地で日本の食文化の素晴らし
さを見直し、帰国してから職人を雇
い和菓子屋を開業しました。そこで
最初につくったのが、素朴な「酒ま
んじゅう」です。「和ごころ」の詰
まったこのお菓子が小社のお菓子づ
くりの原点であり、幼かった私も、
この酒まんじゅうをつくるのを見な
がら育ちました。その後、私の兄で
ある長男の勝が事業を継承しました

が、兄は体が弱かったので、富士製
鉄を退職した三男の俊三(現(株)あ
わしま堂会長)と私の2人も出資し、
3人の共同経営として有限会社木網
あわしま堂を設立しました。当時、
私は高校を卒業したあと1年間働い
ておカネを貯め、東京の製菓学校で
学んでいましたが、半年くらいする
と、店が忙しいうので帰ってこいとい
うことになり、共同経営者となつた
わけです。その後、1968年(昭
和43年)に株式会社とし、1976
年(昭和51年)に現在の(株)あわしま
堂に社名を変更して現在に至ってい
ますが、2001年(平成13年)年
に私が社長に就任しました。

——個人商店から共同経営の株式会
社へと発展していくなかで、御社の
経営に変化があったのでしょうか？
木網 和菓子職人には、気分が良く

れば店に出てくるが気分が乗らなけ
れば出てこないというような気ま
まな人が多く、創業以来、父は職人の
扱いに苦労していました。2代目社
長の勝は、小売から卸売を中心とし
た営業を開始しましたが、職人に頼
っていたのでは安定した生産・販売
が実現できません。1960年(昭
和35年)頃からお菓子づくりの機械
化に力を入れ、職人の腕や技に頼ら
ずに品質が均一化したお菓子を大量
に製造できるようになりました。こ
のお菓子づくりの機械化は当社がど
こよりも早かったと思います。その
後、有限会社を設立し、さらに株式
会社へと改組したわけですが、当時
はスーパーマーケットの台頭期でし
た。そこで、スーパーマーケットが
世の中に広がっていくのと歩調を合
わせて、当社の菓子も消費者へと浸



1995年（平成7年）に建設された本社工場

透していったわけです。その意味では、当社の歩みはスーパーマーケットの歴史と軌を一にするところがあります。

美味しくて安心感のある
やさしいお菓子づくり

——現在、御社が製造するお菓子の種類および生産量はどのくらいあるのですか？

木網 「酒まんじゅう」に始まった当社のお菓子は、「栗まんじゅう」「どら焼き」「串団子」「大福」などの和菓子と「シュークリーム」「カステラ」「ブッセ」などの洋菓子を含めて約120種類あります。これらを愛媛本社工場および愛媛第一工場、京都伏見第一工場、同第二工場の4工場です。これは西日本では最大級の生産量です。こうして製造したお菓子は西日本の約4000店のスーパーマーケットで販売していますが、今年（2011年）の1月に東京支店を開設し、関東地域での販売を本格化しました。2月、3月と販売は順調に伸び、4月には神奈川の地元スーパーマーケットの店舗で、当社の全御得意先単店当りでの月次売上が一

番となる店が出ました。ちなみに、当社の約120種類のお菓子のうち、20〜30種類は毎年開発される新商品です。どんなに美味しいお菓子でも毎日同じものを食べていれば飽きますし、新商品を楽しみにしているお客様もたくさんいらっしゃいます。ですから、定番のお菓子をつくり続ける一方で、6か月、1年先を見据えて新製品開発を絶えず行っているわけです。

——御社のお菓子が西日本だけでなく関東でも受け入れられ、広い範囲で買われている理由をどのようにお考えですか？

木網 当社のお菓子が安価であることは、お客様に喜ばれている理由のひとつではあると思います。しかし、安いだけのお菓子であれば、他にもいくらでもあります。当社がこだわっているのは、企業理念である「美味しさづくり 笑顔づくり」というコンセプトにそったお菓子づくりです。美味しくて、健康・安全面にも考慮したお菓子。言ってみれば、お母さんの手のひらのような、安心感のあるやさしいお菓子です。そのために、品質管理には徹底して取り組んできました。近年、消費者のお菓

子に対する嗜好は「本物志向」とな
っており、安いだけでは買っていた
だけません。本物志向という点、老
舗の名店で製造販売しているものが
本物と思いがちですが、それは全く
違います。例えば、当社のどら焼き
は東京の老舗で売られているものと
比べても格段に美味しいはずで

ただ、当社が目指しているのは日本
一の品質であり、そこで勝負をしよ
うと思っっていますから、他社さんの
製品と売上や利益で競うつもりはあ
りません。実際、あわしま堂のお菓
子のお客様はほとんどがヘビーユー
ザー（大量消費者）でして、一度当
社のお菓子を食べたお客様はずっと
買い続けておられます。取引先でも
当社のお菓子を食べたバイヤーは
100%「販売させてほしい」と言
っていただけます。ですから、食べ
もしないで仕入れ価格の話ばかりす
る取引先はお断りしているんです。

食の安全・安心のために 本社工場を新たに建設

——企業理念の「美味しさづくり
笑顔づくり」にはどんな思いが込め
られているのでしょうか？

木網 このコンセプトは3年前にで

きました。それまでは「日本一美味
しいお菓子を安くつくろう」という
ことを企業理念にしていたが、
安くつくろうという思いが強くなり
すぎて、美味しいお菓子をつくる
という本来の目的が忘れられがちにな
ってきたのです。そこ

で、社員とともに何度
も企業理念を再考し、
最終的にこの言葉がで
き上がりました。美味
しいものをつくれば、
お客様も社員もその家
族もみんな笑顔になる。
その笑顔の輪を広げ
ることが当社の目的であ
り使命なのです。その
企業理念を実現するた
めに、機械化の徹底、
製造したお菓子を24時
間以内に店頭並べる
「D1体制」という物
流の構築、ストア・ア
ドバイザーによる商品
陳列支援など、仕入れ
から製造、配送、陳列
まで一貫した管理を行
っています。なかでも
品質管理には力を入れ、

本社工場や京都工場に4〜5名の専
従の社員をおき、品質管理をはじめ
工場内の衛生管理の徹底を行って
おります。菓子メーカーでここまで行
っているところは、かなり少ないと
思います。



本社に設けられた販売コーナー。奥にはお休み処も用意されている。

——1995年（平成7年）に現在
の本社工場を建設されていますね。
木網 1974年（昭和49年）に建
てた本社工場（現・保内第一工場）
が古くなり、新工場を建設すること
になったのですが、この工場建設に



（株）あわしま堂のお菓子の原点である「酒まんじゅう」



多くのヘビーユーザーから愛される「どら焼き」

はふるさと財団の「ふるさと融資」も活用させていただき、総額36億円をかけました。当時の売上が70億、80億円でしたから、約半分の投資です。あまりにも冒険すぎるというので、反対の声も上がり、社内は大騒ぎとなりました。しかし、そのときの私は、これからの菓子メーカーは衛生管理がしっかりした工場でないといけないと確信しており、36億円の投資は冒険とは思いませんでした。近年、賞味期限の偽装など食の安全・安心が問題になりましたが、あのとき新工場の建設をためらっていたら、今のあわしま堂はなかったと思います。その意味では、本社工場の建設は当社の大きな転機でした。

——**美味しくて安全なお菓子づくりのために万全の体制をしいていらっしゃるようですが、1年中、同じ品質のお菓子をつくるためにどんなことに注意されているのでしょうか？**

木綱 お菓子づくりは非常にデリケートで、機械化によって同じようにつくっても季節や材料、湿度などによって味が微妙に変わります。当社の工場は他社に比べれば密閉度も高く湿度や温度は安定していますが、

それでも気温差や湿度によって微妙に変化します。そこで、安定した品質のお菓子をつくるために、焼いたり蒸したりして仕込んだお菓子をベルトコンベアにのせ、一定の加熱時間、一定の冷却時間を経て、そのまま密封できるラインを構築しています。これによって工程の中での滞留時間がなく、品質も安定し衛生面でも安心なお菓子ができるわけです。

全国展開は急がない 社員の生活が大切

——**御社は地域とのかかわりを大切にし、さまざまな形で地元貢献しているようですが、具体的にはどんなことをされているのでしょうか？**

木綱 毎年、子どもの夏休みの最後に、本社工場で「あわしま祭」というイベントを開催しています。今年



本社の販売コーナーは無人のセルフ方式。

で15回目になりますが、地元のいろいろな団体と協力し、出店やギター、太鼓の演奏などを行い、最後はみんなで盆踊りをするというのが恒例です。当社のお菓子も廉価で販売したり景品として差し上げたりしています。

地域イベントとして地元にして地元で浸透しており、毎年たくさんの方が集まります。また、地域の子どもたちの健全育成のために開催しているのがソフトボール大会です。私自身、子どものころから野球が好きで、社内にもチームがあります。そのほか、「佐多岬ふるさとウォーク」に協賛し、参加者にお菓子や飲み物を提供しています。雇用面でも、現在、従業員は800名以上ありますが、その3分の1が地元採用です。

——**現在、西日本では最大級の菓子**

メーカーとなっていますが、今後、中部や関東、東日本へも販路を広げていく方針ですか？

木綱 私たちの夢は、日本全国にあわしま堂のお菓子を提供することです。そのため、現在、京都工場から中部、関東地方にも出荷しており、神奈川県でも販売を開始しました。関東のスーパーマーケットからも早く東京に進出してほしいとの要望があり、いつかは東京工場をつくる計画です。しかし、社員には「急ぐな」と言っています。急げば、必ずどこかで誰かが無理をする。急な拡大はどこかで破綻するので、自分たちの力の範囲内でじっくりと広げていけばいい、と言っているんです。ですから、何年後に全国の販売店を何万店にするとか、東京や東日本の売上をいくらにするとかという具体的な数字は上げていません。売上が急激に上げる必要はないんです。それよりは、安定した売上を維持し、適切な利益を出して、社員みんなが安心して生活できることを大切にしています。

——**御社が目指している「日本一美しい工場」とは、どんな工場ですか？**

木綱 2代目社長の勝が、「工場楽

【会社概要】

会社名	： 株式会社あわしま堂
創業	： 1927 年（昭和 2 年）
設立	： 1968 年（昭和 43 年）7 月
資本金	： 2 億 1,393 万円
従業員数	： 830 名（正社員 630 名）
年商	： 111 億 4,000 万円（2011 年 3 月期）
事業内容	： 和洋生菓子の製造・販売
所在地	： 〒 796-0295 愛媛県八幡浜市保内町川之石 1-237-53 TEL：0894-36-2177 FAX：0894-36-3133
URL	： http://www.awashimado.co.jp/

【沿革】

- 1927年 木網勝三郎が個人営業で和菓子屋を開業
- 1968年 株式会社あわしま堂製菓を設立
（資本金300万円）
- 1974年 愛媛県八幡浜市（旧西宇和郡）保内町に新工場（現在の保内第一工場）を竣工、本社を移転
- 1976年 社名を株式会社あわしま堂に変更
（資本金2,100万円）
- 1995年 保内町に新工場（現在の本社工場）、新事務所を竣工、本社を移転
- 1999年 京都伏見工場（現京都伏見第二工場を竣工）、京都支店を開設
- 2007年 京都伏見第一工場を竣工
- 2009年 名古屋支店を開設
- 2010年 「ふるさと企業大賞」（総務大臣賞）受賞
- 2011年 東京支店を開設



「園」という考えを持っていました。その考えを私も受け継ぎ、工場がきれいであれば美味しいものとはできないと思います、どんなに生産量が増大してもチリひとつ、ミスひとつ許さない、衛生管理・品質管理が行き届いた清潔できれいな工場を目指しています。そのために、定期的に水質検査や衛生検査を行っていますし、チリやゴミを目にしたら誰もがすぐに拾います。もちろん、私も拾います。そのおかげで、当社の工場を訪れた取引先のバイヤーは誰もが、そ

の清潔さを称賛し、「売らせてください」と言っていたできます。

うそをつかない社風で地域社会に貢献

最後に、社長が日頃大切にしていることをお聞かせください。

木網 社内で働くみんなに、精神的ストレスのない会社になりたいと思っています。ストレスというのは、上司と部下という関係の中にあるとたまるものなんです。ですから、当社ではチームで仕事をするようにして

います。一緒に働く仲間として協力し合う風通しの良い会社にしたいと努力してきましたが、今はその社風が社内に浸透しています。これまで美味しいお菓子づくりのために機械化を進め、最新の設備も導入してきましたが、最終的にはお菓子をつくるのは人であり、当社はお菓子をつくると同時に、人を育てているのだと考えています。そのために社員教育に力を入れ、企業理念を実現するための「行動指針」を示しています。が、なかでも「うそをつかない」と

いうことを重視しています。生産現場でも営業でも隠しごとをすれば、それが社会問題に発展したりします。ですから、社員にミスがあっても数字が上がらなくても隠さずに報告するような社風を目指しています。もちろん、会社も業績をオープンにして誰もが、会社の現状を知ることができるようになっています。これからもうこうした社風、企業理念を大切に地域社会に貢献していきたいと思っています。



多くの文化事業で培った 絶妙な事業運営のノウハウで 来館者をファンにする

～魅力ある企画を次々と提案するノウハウとは～

駅から直結。交通至便の文化施設、
「かなつくホール」の通称で親しまれる横浜市神奈川区民文化センター。
区民参加型、育成型のプログラムを多数揃え、
昨年開催された「夢かなつく 2010」にも多くの区民が足を運んだ。
「神奈川区民の芸術文化活動の拠点」という市からのミッションを果たす
指定管理者サントリーパブリシティサービス(株)の事業運営をレポートする。

**駅から直結。交通至便
多くの利用者が訪れる
芸術文化活動の拠点**

神奈川県横浜市にあるJR東神奈川駅（東口）と京浜急行仲木戸駅（西口）の間の再開発地区は「かなつくシティ」と呼ばれ、両駅と再開発ビル3棟がペデストリアンデッキ（歩行者回廊）によってつながれている。その1棟の再開発ビルの2・4階に、横浜市が神奈川区民の芸術文化活動の主要拠点として設立した「横浜市神奈川区民文化センター」（かなつくホール）がある。2階のエントランスまで駅から直結しており、利用者の足の便はきわめて良い。

設立は2004（平成16）年7月。300席の客席をもつホールは、音響反射板や可動式プロセニアム（額縁舞台）、フルコンサートピアノを備え、様々な表情をつくることができ、音楽、演劇など幅広いジャンルに利用されている。2室のギャラリーは絵画、写真、書道、工芸などの美術作品の展示、鑑賞の空間であり、可動展示パネルによって様々な展示壁の構成も可能だ。他にも、小規模な公演や発表、練習に適した音楽ル

ームや、防音された練習室（2室）なども設備されており、神奈川区民を中心に多くの利用者が訪れる。

このかなつくホールに、横浜市は2006（平成18）年4月から指定管理者制度を導入した。横浜市は早くから市内の文化施設やスポーツ施設、福祉施設などに指定管理者制度を導入しており、市内の956施設に同制度を導入している（平成22年10月現在。横浜市のホームページより）。かなつくホールの設立から間もない時期に、施設の運営・管理を指定管理者に切り替えたのも、同市の積極的な取り組みの一環である。選定にあたっては第1次、第2次の2度の審査を経て、6つの応募団体のうちからサントリーパブリシティサービス株式会社（SPS。代表構成団体）、株式会社共立、株式会社神奈川共立の3社からなる共同事業体を指定管理者に決定した。横浜市では指定管理者の選定過程をホームページで公開しており、それを見ると、同事業体の提案が「きわめて魅力的」であり、高く評価されたことがわかる。選定理由について、かなつくホールの館長であるSPSの小椋覚氏はこう語る。



JR 東神奈川駅と京浜急行仲木戸駅
から直結のかなっくホール

「最前線の営業マン」として来館者に
対応する受付スタッフ



「3社のこれまでのホール運営の実績と、私どもサントリーという会社が数十年にわたって文化事業、文化活動に取り組んできており、そのなかで蓄積されたノウハウやネットワークという付加価値が、市に評価していただけたのではないかと考えています。また、審査のプレゼンテーションでは、いくつかの事業を提案させていただきましたが、それらの事業をシリーズ展開し、指定期間の最終年度となる5年後に、その成果を集大成する区民参加型のフェスティバルの開催をも提案させていただきました」

講座で育ったメンバーが 自ら企画・運営した 夢かなっく2010

かなっくホールの指定管理者の指定期間は5年であり、今年（2011年）3月に第1期の指定期間は満了しているが、SPSをはじめとする共同事業体の5年間の実績が評価されるところに、第1期と同様に公募選考を経て、現在2期目に入っている。

る。それでは第1期の5年間の間に、かなっくホールではどんな事業が行われてきたのだろうか。SPSの事業担当マネージャーである宇山友思氏に説明いただいた。

「私どもの事業は、第1期から大きく3つの枠組みのなかで進めてきております。1つめは『鑑賞型事業』であり、全国的にも名を知られた一流のアーティストをお呼びして、区民の方々に最高の芸術文化に触れていただくというもの。2つめは『区民参加型事業』であり、区民の方々の芸術文化活動の場として、また地元の若手アーティスト支援の場として実施するもの。そして3つめが『育成型事業』であり、区民の方々の生活に芸術文化を取り入れていただき、また自ら芸術文化を発信するためのスキルを身につけていただくという各種講座などです。これらの事業を『神奈川区民の芸術文化活動の主要拠点』という市から我々に与えられたミッションに当てはめながら展開してきました」

こうした3つの事業で展開してきた背景には、公的施設の予算的制約という事情もある。区民に喜ばれるからといって1年に何回も一流ア



テイストを招く予算はない。限られた予算の中でいかに市のミッションを果たすか。そこで考え出されたのが区民参加型や育成型の事業だったという。

「予算に限りがあることを逆手にとって、むしろ区民参加型や育成型により力を入れることで、かなつくホールらしさを出していこうという」と工夫し、プログラミングをしてきました」（宇山氏）

実際、昨年度（2010年度）の公演・活動実績を見ると、落語家・春風亭昇太の公演や、ロバの音楽座の「親子で楽しむコンサート」などがある一方で、若き靴磨き職人を講師とした「センスアップ講座」や人形師の指導のもとマリオネット人形をつくる「体験工房」などもある。そのほか、気楽に上質な音楽を楽しむことのできる「かなつくワンコイン・コンサート」もあり、毎月のプログラムを見るのが楽しみになるような創意工夫が見てとれる。

5年間で事業の成果を集大成するというSPSの当初の提案を具現化したのが、かなつくホール文化祭「夢かなつく2010」だ。2009年に開催した文化事業の担い手を育成

「夢がなっく 2010」で多くの区民が来館した
「かなっくジャズ・オーケストラ」

音響反射板や可動式プロセニウム、
フルコンサートピアノを備え、様々
な表情をつくることのできるホール。



する「アートマネジメント講座」の
受講生20名の中から10数名の有志が
中心となって、夢がなっく2010
の実行委員会のメンバーになってい
る。同文化祭の中の企画の1つに「区
民プロデュース企画」があり、大人
と子どもが一緒に絵本に触れ読書の
楽しさを体験する「かなっく“ワ
クワク”えほん広場」、笑顔の力で
地元を元気にする「区民 笑顔のフ
ォト・フェスティバル」の展示企画
や、JAZZのまち横浜にふさわし
い「かなっくジャズ・オーケストラ」
のパフォーマンス企画が開催され
たが、その企画立案から制作・運営ま
でを実行委員会のメンバーが自分た
ちの手で行った。約2週間にわたる
開催期間には区民を中心にたくさん
の来館者があり、文化祭は見事に成
功した。しかし、自分たちが学んだ
成果を発表しようと大いに盛り上が
る実行委員のメンバーの陰で、小椋
館長をはじめとするSPSのスタッ
フは不安を払拭できなかったという。
小椋館長はこう振り返る。

「ジャズ・オーケストラについては、
出演者は有名なミュージシャンでは
なく、入場も有料でしたから、正直、
ホールの300の客席が埋まるだろ

アップライトピアノが備えられ、室内楽、声楽等の練習に最適の練習室A。他に練習室Bもある。



簡易な照明・音響設備、グランドピアノを備え、小規模な公演、発表、練習のほか、ダンス、演劇などの練習にも利用できる音楽ルーム。

うかと心配でした。5年間の集大成として開催した文化祭の目玉企画だけに、多くのお客様に来ていただくなければなりません。ところが、そんな心配は杞憂に終わりました。告知を始めてみたら公演1週間前にチケットは完売。当日は満席で、入場できないお客様からおしかりを受けるといふ誤算もあり、次回の反省材料となったほです」

絶妙なさじ加減で多くの制約の中で受講生を満足させる

夢かなった2010の成功の背景には、実行委員の努力や熱意とは別に、実はSPSの絶妙な事業運営のノウハウがあった。言うまでもなく、かなつくホール（横浜市神奈川区民文化センター）は公の施設であり、その事業運営には税金が投入されている。それだけに、民間の各種講座のように受講生の満足度だけを追求すればよいというわけにはいかない。「受講生が自分たちの手で企画から制作・運営まで行うとした場合、彼らの満足度が高くて、来館者である区民や市民に支持されなければ、それは偏った税金の使い方になって

しまいます。かといって、こちらの口出しが多ければ、文化祭は成功しても受講生に達成感はありません。また、任せっきりになると、公共施設にふさわしい事業クオリティのコントロールができなくなります。この辺のさじ加減、受講生との距離感が難しいですね」（小椋館長）

かなつくホールで開催される講座の多くは参加型、育成型であり、基本的にSPSは受講生の自主性を尊重し、過度の指導、干渉はしないという。しかし、その一方で指定管理者者として市の予算を預かる責任がある。そのバランスの取り方こそがSPSが培ってきた事業運営のノウハウなのだろう。

かなつくホールのように劇場やコンサートホールをもつ施設の指定管理者にとって、緊急事態の対応も重要な問題だが、3月11日の東日本大震災の当日、同ホールの舞台では高校の吹奏楽部の生徒と先生が夜の公演に備えて練習をしていた。激しい揺れがおさまったあと、館長らスタッフは先生と一緒に生徒らをホワイエに誘導。かなつくホールの入るビルは免震構造のため、外に出るよりもホール内にいたほうが安全と判断



「夢がなく 2010」の展示企画として開催された大人と子どもが一緒に絵本に触れ読書の楽しさを体験した「かななく“ワクワク”えほん広場」。



絵画、写真、書道、工芸などの美術作品の展示、鑑賞に適したギャラリーB。他にギャラリーAもある。

し、夜の本公演まで無事終えることができたという。

「地震に限らず、火事や台風などの緊急事態に備えて避難訓練なども実施していますが、今回の大震災のように想定以上の大きな地震の場合には、結局はそのときの状況に応じた判断、対応が重要だと思います。

行政との連携も必要ですが、まずは施設を預かる指定管理者が的確・迅速に対応すべきだと思います」（小椋館長）

最後に、SPSの今後の指定管理者としての心構えについて小椋館長に話を伺った。

「サントリーではコンサートホールや美術館などいくつかの文化施設を運営していますが、そこで大切にしているのは、来館していただいたお客様に十分満足していただき、その結果として施設のファン、サントリーのファンになっていただくことです。そのためには『気持ちよく過ごせた』と感じていただかなければなりませんから、スタッフ全員がホスピタリティ（思いやり）あふれるサービスを提供するよう、受付や電話の対応などにはとくに心を配っています」



東京、大阪で 「自治体PFIセミナー(基礎編)」 を開催

ふるさと財団では、地方公共団体等のPFI担当初任者を対象に、PFIに係る基本的事項を内容としたセミナー(基礎編)を東京及び大阪にて開催いたしました。



講義を行う株式会社日本総合研究所 執行役員 創発戦略センター所長の井熊均氏

平成23年5月19日(木)から20日(金)にかけて東京(会場…JA共済ビルカンファレンスホール)で、平成23年5月26日(木)から5月27日(金)にかけて大阪(会場…第二吉本ビルディング)で開催しました。

本セミナーではPFIに関する豊富な知識と経験を基に、第一線でご活躍されている専門家の方々を講師として、PFI事業に関する基本的事項や、事業の進め方等についてご講義いただきました。さらに、地方公共団体の事例紹介として、稚内市と長岡市の職員をお招きして、PFI手法による公共施設整備の事例についてご紹介いただきました。

全国の地方公共団体等から、両会場合わせて182名のご参加をいただき、当日の会場では熱心にご聴講いただきました。

平成 23 年度「自治体 PFI セミナー（基礎編）」カリキュラム

- ①東京会場：平成 23 年 5 月 19 日（木）～ 20 日（金）JA 共済ビルカンファレンスホール＜JA 共済ビル 1 階＞（東京都千代田区）
 ②大阪会場：平成 23 年 5 月 26 日（木）～ 27 日（金）第二吉本ビルディング＜オフィスタワー 8 階＞（大阪府大阪市北区）

講義テーマ	講師
自治体 PFI の概要	地域総合整備財団 総務部参事役 岡田 正幸
事業手法の検討及び事業の発案と PFI 導入可能性調査	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 研究開発第1部長 兼 PFI 推進室長 主席研究員 加藤 義人氏
事業者選定の課題と対応の実務	(株)日本総合研究所 執行役員 創発戦略センター所長 井熊 均氏
PFI 等のリスク分担について	(株)エイト日本技術開発 グローバルビジネス本部 PPP 事業室 東京支社 PPP 室 室長 山本 宏一氏
適切な運営の確保とモニタリング	みずほ総合研究所(株) 研究開発部 主席研究員 福田 裕之氏
契約実務の基礎	西村あさひ法律事務所 弁護士 野本 修氏
＜地方公共団体事例紹介＞ ①東京会場 稚内市「稚内市生ごみ中間処理施設整備・運営事業」 ②大阪会場 長岡市「長岡市生ごみバイオガス化事業」	稚内市生活福祉部中間処理施設 担当主幹 古川 裕輝氏 長岡市環境部環境施設課 計画係長 瀧澤 信雄氏
＜調査報告＞ 「中小規模の自治体における PFI 等の推進方策」に関する調査・研究報告	(株)日本経済研究所 調査本部 パブリック調査グループ副局長 兼 営業企画部長 吉田 育代氏
PFI 導入の留意点とまとめ	(株)日本経済研究所 常務取締役調査本部長 金谷 隆正氏



第二吉本ビルディングで行われた大阪会場の模様

○本件に関する問い合わせ先○

（財）地域総合整備財団
 ＜ふるさと財団＞
 開発振興部開発振興課
 TEL 03-3263-5758
 FAX 03-3263-7423

「自治体PFI事例研究セミナーのご案内」

平成23年11月頃、東京の会場で開催予定です。

*内容

PFI に関する最近の動向や自治体 PFI 事業の先行事例の研究を内容とするセミナーを予定。

*参加対象者

地方公共団体等の職員

*参加費

無料

*開催案内・申し込み

開催日の約2ヶ月前に、財団ホームページ等でご案内します。

自治体 PFI 推進センターのポータルサイト
<http://www.pficenter.jp/>
 では、PFI 事業の最新情報を提供しています。



平成22年度 第2次ふるさと融資予定事業について (地域総合整備資金貸付)

ふるさと財団では、平成23年2月23日付けで、以下のとおりふるさと融資(地域総合整備資金貸付)予定事業を決定しました。

調査委員会の開催

第2回 平成22年11月9日
第3回 平成23年1月31日

ふるさと融資予定事業の通知

第2次 平成23年2月23日

今回のふるさと融資は、新規事業が40件、継続事業5件の計45件となっており、新たに発生する設備投資総額は約764億円、新たな雇用の増加は1,720人、ふるさと融資貸付予定額は85億4,900万円を予定しています。(設備投資総額、雇用の増加については、新規分のみの計です。)

事業分野別の特徴としては、E. 文化・教育・医療・福祉分野が、貸付予定額全体の6割を超えています。これは、地域中核病院や特別養護老人ホーム等施設整備の高い需要が見られたためです。

1. 概要

(1) 平成22年度 第2次ふるさと融資予定事業

(単位: 件、人、百万円)

事業件数	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額	(注)
45 (5)	1,720 —	76,378 —	8,549 (3,288)	()内は、うち 過年度からの 継続事業

(2) 貸付団体別 内訳

(単位: 件、人、百万円)

	事業件数	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額
(1) 都道府県・政令指定都市 計	9	881	30,833	4,898
うち新規	5	881	30,833	1,830
うち継続	4	—	—	3,068
(2) 市町村 計	36	839	45,545	3,651
うち新規	35	839	45,545	3,431
うち継続	1	—	—	220
合 計	45	1,720	76,378	8,549
うち新規	40	1,720	76,378	5,261
うち継続	5	—	—	3,288

(3) 事業分野別 内訳

(単位: 件、人、百万円)

事業分野	件数	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額
A 交通・通信基盤整備	1 (0)	15 —	2,385 —	100 (0)
B 都市基盤施設整備	1 (0)	60 —	828 —	80 (0)
C 地域産業振興	C1 第1次産業系	3 (1)	1,285 —	373 (220)
	C2 第2次産業系	3 (0)	3,435 —	363 (0)
	C3 第3次産業系	7 (1)	18,042 —	1,788 (848)
	小 計	13 (2)	22,762 —	2,524 (1,068)
D リゾート・観光振興	3 (0)	65 —	2,414 —	501 (0)
E 文化・教育・医療・福祉	27 (3)	722 —	47,989 —	5,344 (2,220)
合 計	45 (5)	1,720 —	76,378 —	8,549 (3,288)

(注) ()内は、うち過年度からの継続事業

2. 平成22年度 第2次ふるさと融資予定事業一覧

(単位:人、百万円)

番号	事業名	事業分野	事業地	貸付団体	事業者名	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額	事業内容
1	病院移転新築事業	E	新潟県新潟市	新潟市	新潟医療生活(協)	30	7,310	1,400	●病院老朽化に伴う移転新築 ●敷地 25,388.81㎡(うち賃借 24,624.74㎡)、延床21,412.15㎡(RC造9階建)
2	病院移転新築及び歯科診療所建設事業	E	新潟県新潟市	新潟市	(医)新潟勤労者医療協会	36	5,989	200	●病院老朽化に伴う移転新築と新たな歯科診療所の建設 ●敷地 39,600㎡、延床17,336㎡(S造6階建)
3	地域中核病院建設事業	E	富山県高岡市	富山県	富山県厚生農業(協)連合会	50	4,278	30	●厚生連高岡病院の一部建替え事業 ●敷地 28,447㎡、延床18,424㎡(SRC造7階建他2棟)
4	百貨店・事務所ビル建設事業	C3	静岡県浜松市	浜松市	遠州鉄道(株)	900	11,130	848	●遠鉄百貨店の新館を核とした、公共施設・事務所を含めたビルの新築 ●敷地 3,253.20㎡、延床 40,157.43㎡(SRC造地上13階地下2階建)
5	地域中核・災害拠点病院建設事業	E	広島県尾道市	広島県	広島県厚生農業(協)連合会	17	13,409	1,565	●地域中核病院の移転・新築 ●敷地 22,116.07㎡、延床 41,728.69㎡(RC造7階建他)
6	病院移転新築事業	E	徳島県徳島市	徳島県	(医)倚山会	60	4,396	475	●病院を移転新築する ●敷地 13,553.92㎡(賃借)、延床 16,166.35㎡(RC造6階建)
7	ショッピングセンター建設事業	C3	徳島県藍住町	徳島県	(株)イズミ	750	10,871	100	●広域型複合商業施設の建設 ●敷地 90,000㎡(うち賃借70,000㎡)、延床125,000㎡(S造4階建)
8	熊本空港国内線ターミナルビルの増改築事業	A	熊本県益城町	熊本県	熊本空港ビルディング(株)	15	2,385	100	●空港ターミナルビルの増改築工事(第5期工事) ●敷地 17,287.46㎡(うち賃借 17,287.46㎡)、延床22,125.04㎡(RC及びS造3階建)
9	粒子線がん治療研究施設整備支援事業	E	鹿児島県指宿市	鹿児島県	(財)メディボリス医学研究財団	35	9,237	180	●がん粒子線治療研究センターの建設 ●敷地 3,473㎡(賃借)、延床 6,031㎡(RC造地上2階地下1階)
10	廃棄物総合処理施設建設事業	C3	北海道紋別市	紋別市	(株)リテック	7	1,390	125	●管理型最終処分場等の建設 ●敷地 329,289.58㎡(うち賃借329,289.58㎡)、延床2,800.38㎡(S造1階建)
11	環境負荷低減型石狩データセンター建設事業	C3	北海道石狩市	石狩市	さくらインターネット(株)	20	4,656	600	●石狩データセンターの新築 ●敷地 30,000㎡、延床6,325㎡(S造2階建)
12	小麦製粉工場新築事業	C1	北海道音更町	音更町	(株)山本忠信商店	5	940	119	●十勝産小麦による製粉工場の新設 ●敷地 8,521.18㎡(うち賃借8,521.18㎡)、延床1,954.07㎡(S造4階建)
13	営業拠点施設建設事業	C3	青森県八戸市	八戸市	(株)東洋陸送社	6	286	29	●スズキ車を主体とした商品車配送拠点建設 ●敷地 10,094.11㎡、延床146.28㎡(S造1階建)
14	温浴施設建設事業	D3	青森県むつ市	むつ市	むつ観光ホテル(株)	5	421	76	●むつグランドホテル内の温浴施設の建設 ●敷地 43,964.61㎡、延床1,012.85㎡(S造1階建)
15	特別養護老人ホーム整備事業	E	青森県深浦町	深浦町	(福)治省会	22	354	50	●地域密着型特別養護老人ホームの新設 ●敷地 23,052㎡、延床1,441.94㎡(S造平屋建)
16	特別養護老人ホーム増築事業	E	宮城県石巻市	石巻市	(福)和仁福祉会	16	478	50	●特別養護老人ホーム40床(個室)の増築 ●敷地 9,261.21㎡(うち賃借9,261.21㎡)、延床 1,638.27㎡(S造1階建)
17	特別養護老人ホーム建設事業	E	宮城県南三陸町	南三陸町	(福)美楽会	50	1,017	100	●特別養護老人ホーム80床の建設 ●敷地 4,692㎡(うち賃借4,692㎡)、延床4,992㎡(RC造4階建)
18	間伐材等加工流通施設整備事業	C1	秋田県湯沢市	湯沢市	北日本索道(株)	5	345	34	●チップ工場の建設 ●敷地 9,821㎡、延床808㎡(木造平屋建)

番号	事業名	事業分野	事業地	貸付団体	事業者名	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額	事業内容
19	精密加工板金工場新設及び塗装工場増築事業	C2	秋田県湯沢市	湯沢市	(株)高瀬電設	5	565	81	●新工場を建設し本社を移転及び既存工場の増築 ●敷地 10,800㎡、延床2,195㎡(S造一部2階建)
20	温泉宿泊施設建設事業	D3	秋田県仙北市	仙北市	(株)日本ふるさと計画	20	732	125	●温泉旅館の新築 ●敷地 43,978㎡、延床1,609㎡(木造平屋建)
21	特別養護老人ホーム建設事業	E	山形県尾花沢市	尾花沢市	(福)尾花沢福祉会	41	1,090	140	●特別養護老人ホーム及びデイサービスセンターの建設 ●敷地 14,238㎡、延床3,819㎡(RC造平屋建)
22	特別養護老人ホーム建設事業	E	山形県尾花沢市	尾花沢市	(福)慈敬会	14	267	48	●特別養護老人ホームの20床増床 ●敷地 8,633㎡(うち賃借574㎡)、延床901㎡(S造平屋建)
23	介護施設建設事業	E	福島県川俣町	川俣町	(福)恩賜財団済生会(福島県済生会)	60	700	85	●医療法人佐藤病院の経営移譲を受け、病院を廃止し介護施設等に整備 ●敷地 5,948.05㎡、延床3,708.56㎡(西棟S造2階建/東棟RC造4階建)
24	地域中核病院施設整備事業	E	栃木県大田原市	大田原市	日本赤十字社(大田原赤十字病院)	15	16,656	100	●病院の移転新築事業 ●敷地 70,993.61㎡、延床40,291.15㎡(RC造10階建)
25	特別養護老人ホーム施設整備事業	E	千葉県銚子市	銚子市	(福)清栄会	43	946	98	●特別養護老人ホームの建設 ●敷地 4,961.27㎡、延床4,098.27㎡(RC造2階建)
26	認知症高齢者グループホーム建設事業	E	新潟県新発田市	新発田市	(福)御幸会	10	120	12	●グループホームの建設 ●敷地 6,828.27㎡、延床545.39㎡(木造1階建)
27	医薬品原薬製造工場建設事業	C2	富山県富山市	富山市	金剛化学(株)	7	1,324	150	●医薬品原薬の製造工場(第18工場)新設 ●敷地 1,027㎡、延床 1,405㎡(S造4階建)
28	地域密着型サービス施設建設事業	E	富山県富山市	富山市	(福)富山ふなん会	44	686	80	●小規模特別養護老人ホーム等の建設事業 ●敷地 3,673㎡(うち賃借673㎡)、延床2,431㎡(S造3階建)
29	地域密着型サービス施設建設事業	E	富山県富山市	富山市	(福)陽光福祉会	43	549	40	●小規模特養20室等の建設 ●敷地 1,148㎡、延床 2,289㎡(S造5階建)
30	グループホーム等建設事業	E	石川県金沢市	金沢市	(株)恵	26	237	25	●グループホーム個室18室、小規模多機能定員25名の建設 ●敷地 900.72㎡(うち賃借900.72㎡)、延床 984.73㎡(S造3階建)
31	ミネラルウォーター製造工場建設事業	C1	島根県浜田市	浜田市	(株)ケイ・エフ・ジー	10	1,738	220	●ミネラルウォーター製造第二工場の建設 ●敷地 7,071.53㎡、延床 2,863.45㎡(S造平屋建)
32	介護老人福祉施設等増床事業	E	島根県出雲市	出雲市	(福)真心会	21	329	58	●特別養護老人ホームの30床増床、短期入所4床増床 ●敷地 2,030㎡、延床1,363㎡(RC造平屋建)
33	ホテル建設事業	D3	島根県出雲市	出雲市	出雲ひのみさきの宿ふじ(株)	40	1,261	300	●観光ホテルの建設 ●敷地 9,489㎡(うち賃借9,489㎡)、延床4,765㎡(鉄骨造3階建)
34	特別養護老人ホーム増改築事業	E	島根県出雲市	出雲市	(福)ひまわり福祉会	23	599	87	●特別養護老人ホームの増床及び個室への建替等 ●敷地 1,545㎡、延床2,435㎡(SR造2階建)
35	ショッピングセンター建設事業	B	岡山県津山市	津山市	(株)イズミ	60	828	80	●食料品中心のショッピングセンターを建設する ●敷地 6,437㎡、延床 3,701㎡(S造1階建)
36	高齢者複合施設整備事業	E	広島県竹原市	竹原市	(福)的場会	35	588	70	●高齢者福祉・介護施設の整備 ●敷地 1,856.2㎡(うち賃借573.52㎡)、延床2,981.62㎡(RC造5階建)

(単位:人、百万円)

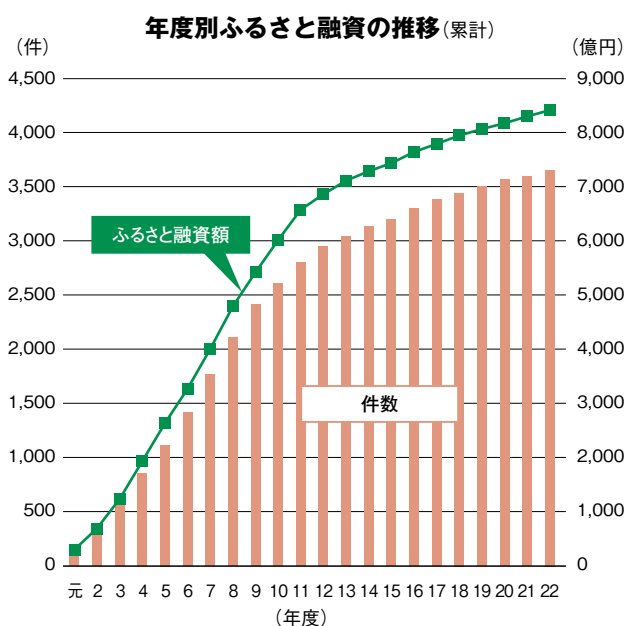
番号	事業名	事業分野	事業地	貸付団体	事業者名	雇用増	設備投資総額	本年度貸付予定額	事業内容
37	地域介護拠点整備事業	E	広島県庄原市	庄原市	(福)総領福祉会	25	461	79	●福祉関係複合施設建設 ●敷地 1,891.74㎡、延床2,956.03㎡(RC造4階建)
38	倉庫建設事業	C3	徳島県小松島市	小松島市	徳島港湾荷役(株)	15	221	42	●貨物保管用倉庫の建設 ●敷地 4,814.24㎡(うち賃借4,814.24㎡)、延床4,738.24㎡(S造平屋建)
39	グループホーム建設事業	E	香川県観音寺市	観音寺市	(株)プランナー	12	143	20	●グループホーム 2ユニット(18床)の建設 ●敷地 1,341㎡、延床499㎡(木造2階建)
40	特別養護老人ホーム改築事業	E	佐賀県唐津市	唐津市	(福)健寿会	60	1,225	140	●特別養護老人ホームの移転改築(ユニット型) ●敷地 6,331㎡、延床4,620㎡(RC造4階建)
41	建設副産物再資源化施設整備事業	C3	長崎県佐世保市	佐世保市	長崎県環境資源リサイクル事業(協)	12	618	44	●建設副産物再資源化施設の整備事業 ●敷地 3,351㎡、延床 1,403.7㎡(S造平屋建)
42	耐震化整備に伴う病院建替事業	E	長崎県雲仙市	雲仙市	(医)伴帥会	5	3,367	112	●長崎県医療施設耐震化臨時特例基金整備事業 ●敷地 6,792.17㎡(うち賃借2,289.56㎡)、延床10,611.31㎡(RC造7階建)
43	有料老人ホーム建設事業	E	熊本県八代市	八代市	(医)明朋会	30	420	80	●有料老人ホーム建設 ●敷地 1,959㎡(うち賃借1,959㎡)、延床2,600㎡(S造3階建)
44	短期入所生活介護施設増設事業	E	鹿児島県鹿屋市	鹿屋市	(福)恵仁会	11	180	20	●短期入所生活介護施設を15床から35床へ増床 ●敷地 1,722㎡、延床860.18㎡(S造平屋建)
45	カツオエキス濃縮及びパウダー工場新設事業	C2	鹿児島県枕崎市	枕崎市	(株)マルハチ・テクノロジー	26	1,546	132	●天然調味料及び機能性食品・バイオ医薬用素材の生産設備整備事業 ●敷地 12,917.91㎡(うち賃借10,739㎡)、延床 3,138.24㎡(S造平屋建<一部4階建>)

※事業分野欄 A:交通・通信基盤整備 B:都市基盤施設整備 C:地域産業振興(C1:第1次産業系 C2:第2次産業系 C3:第3次産業系)
D:リゾート・観光振興 E:文化・教育・福祉・医療

3. 平成元年度～平成22年度のふるさと融資の推移

(単位:件、人、億円)

	件数	雇用増	設備投資総額	ふるさと融資額
元年度	117(一)	8,248	3,743	255
2年度	175(27)	7,759	2,926	395
3年度	239(49)	12,242	5,447	550
4年度	296(57)	12,530	5,542	708
5年度	277(80)	10,851	5,686	696
6年度	297(69)	12,066	5,172	610
7年度	355(84)	16,091	7,004	754
8年度	344(94)	13,948	6,455	810
9年度	299(103)	13,838	6,399	597
10年度	193(106)	8,362	4,263	601
11年度	190(66)	8,969	3,824	559
12年度	152(45)	6,130	2,313	303
13年度	95(37)	2,822	1,371	242
14年度	85(15)	3,249	1,490	178
15年度	76(16)	5,051	1,457	159
16年度	104(19)	4,182	1,513	202
17年度	73(19)	2,295	1,661	152
18年度	62(25)	1,740	890	157
19年度	65(23)	1,544	713	124
20年度	55(20)	2,564	1,030	115
21年度	38(10)	2,396	991	114
22年度	64(7)	2,153	1,098	138
合 計	3,651(971)	159,030	70,988	8,420



(注) 1 ()内は、過年度からの継続案件で外数。
2 単位未満調整につき、合計欄が不一致の場合がある。
3 ふるさと融資額については継続案件も含む。

「氷温貯蔵」という画期的な技術を経て、 新たな食品貯蔵装置を開発

—酸度減少というデコポンの難題を解決—



通常の乾燥にんにくの水耕栽培（左）と、電場処理した乾燥にんにくの水耕栽培（右）

大青工業株式会社

代表取締役社長 服部國彦

北国の先人の知恵である「寒干し」「寒仕込み」。

この古くからの伝承技術を現代に再現した

氷温貯蔵という画期的技術によって農産物の保存と旨味の向上に寄与してきた青森市の大青工業。

そのたゆまぬ向上心から「ポスト氷温」として

新たに開発した「根菜類等保存性向上前処理装置」の開発に至る経緯を語る。

リンゴの貯蔵での失敗が 画期的な貯蔵技術を生む

弊社は1950年（昭和25年）設立の冷蔵・冷凍メーカーです。戦後の創業時から青森県内のリンゴの貯蔵技術の研究を続け、その延長線上で「氷温貯蔵」という画期的な技術を開発し、以来、農産物を中心に様々な食材の保存と食味の向上に寄与してきました。リンゴの貯蔵技術に目を向けたのは、戦後間もない頃で、県内にはリンゴの貯蔵に関する技術がなく、冷却装置もメーカーもなかったからです。そこで冷蔵・冷凍の技術をもつ弊社が装置の製造を始めたわけですが、資材のない時代でしたので、当初は冷凍用バルブの加工から装置製作をしなければなりませんでした。

その後、リンゴの冷却装置を製造、改良していくなかで、あるとき装置の操作を誤り、貯蔵温度をマイナス

2℃以下にしてしまったのです。生の食品を生そのまま貯蔵するには0℃以上のプラス温度で貯蔵するというのが、それまでの常識でしたから、明らかな失敗でした。ところが、スタッフがうっすらと凍結してしまっただけのリンゴを味見してみると、不思議なこと一般に適性といわれている温度で貯蔵したリンゴよりもみずみずしさや甘味が増していたのです。このリンゴの貯蔵での失敗が、「氷温」に着目するきっかけとなりました。

北国の古くからの伝承技術を 再現した氷温貯蔵

現代の技術においても、通常食品を貯蔵するには、生もの（未凍結品）は「0℃以上の冷蔵貯蔵」、凍結品は「マイナス18℃以下の冷凍貯蔵」というのが食品取り扱い温度の常識です。しかし、前述の失敗を契機に、弊社は0℃以下の温度でも生ものの存在領域があることを明らかにしました。つまり、食品によって凍る温度はそれぞれ異なるのです。たとえば、バナナは約マイナス3・5℃、牛肉は約マイナス2・5℃くらいで

にんにく発芽・発根抑制フィールド試験状況



氷温貯蔵によるニンニクの 発芽抑制技術を開発

氷温による変化の仕組みは、「食品が凍結死から自らの命を守る生体防御反応」です。たとえば、内臓を

り、それを再現したのが、弊社の氷温貯蔵という技術です。

なければ凍りません。前述のリングも、普通はマイナス1・4〜マイナス1・7℃くらいで凍ります。この0℃以下で、凍る温度までの間を「氷温温度帯」と呼んでいます。

では、なぜ氷温貯蔵だと食品が美味しく変化するのでしょうか？ 実は、その答えは古くから北国では語り継がれてきていたのです。北国には古来、「寒干し」や「寒仕込み」という伝承技術があり、軒下に獲れたての魚や葉っぱをぶら下げてきました。そうすることで熟成し、保存性も向上します。つまり、氷温貯蔵は北国の先人たちの知恵であり、それを再現したのが、弊社の氷温貯蔵という技術です。

取り出された魚は死んでしまいが、細胞レベルで見れば、まだ生きています。すべての生鮮食品は凍結されたり加熱されたりしていない生の状態では生きているのです。その生きている食品を凍るか凍らないかぎりぎりの温度（氷温温度帯）にゆつくりと誘導すると、肉や魚は凍結死から身を守るため細胞内にあるタンパク質をアミノ酸に分解し始めます。この生体防御反応によって生じるアミノ酸は凍結温度を下げる不凍液であると同時に、旨みの元なのです。

氷温貯蔵は今や野菜や果物などの保存に広く活用されています。なかでも青森県の特産物の一つであるニンニクの保存については、7年程前、ニンニクの発芽抑制用の農薬に発がん性が発見され、一斉に発売中止になりました。農薬を使わずに貯蔵していれば芽が出て、商品価値はなくなります。ですから、農薬の発売中止はニンニク生産農家にとって死活問題でした。そこで弊社は県と協力し、農薬を使わなくても発芽・発根を抑制する前処理システムと氷温貯蔵との組合せでニンニクの発芽を抑

制する技術を開発しました。

学生時代から持ち続けた 研究テーマを開発

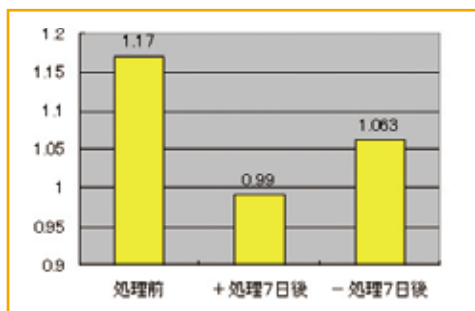
前述したように、食品によって凍る温度が異なるほか、同品種の作物でも産地により生育環境や生理は微妙に異なります。顧客のニーズも様々で、氷温貯蔵という技術はまさにOne to Oneビジネスであり、開発コストのわりに利幅は大きくありません。ですから、この研究開発に反対する声も少なくありませんでした。しかし私は、これからの厳しい時代に生き残るには、大企業も参入できない他社には真似のできない技術をもつことが不可欠だと考えていました。その結果、約20年かけてこの技術を開発したわけですが、10年先を見据え、さらに生き抜くために、ポスト氷温として着手したのが、ふるさと財団の補助金を活用した「根菜類等保存性向上前処理装置」の開発です。

この装置は「静電場」技術の応用により、ニンニクをはじめとする根菜類等の農産物の保存性を向上させるものですが、このテーマは私が学

大青工業株式会社

所在地 青森県青森市問屋町1-9-30
 代表者名 代表取締役社長 服部國彦
 主要業務 氷温、冷凍、冷蔵等の機械製造
 URL <http://www.taiseiaomori.co.jp/>

JA 長崎せいひ納入デコボン向け氷温庫（上／中）
 デコボンを電場処理して氷温貯蔵7日目の減酸
 状況（下）



生時代からいつか研究開発をしたいと持ち続けてきたものなのです。電場を利用した食品への応用技術といえ、1969年（昭和44年）に日本大学工学部教授の浅川孝吉先生が発表し、『Nature』やBBCで紹介された「浅川効果」が有名ですが、実は、私はこの浅川教室の出身でして、先生の実験データの整理を仰せつかっていました。そこでデータを整理していましたが、そこはやはり冷凍機屋の息子ですから、熱に目が向きました。電場の効果は温度が低いほうがはるかに大きいことに気づいたのです。以来、卒業後もずっとこのテーマを持ち続け、弊社の社長に就任したあとも社員に研

ニンニクの保存に代わって デコボンの保存で成果

究を命じましたが、皆、目先の仕事に追われなかなか進展しませんでした。そこで私が1人で実験を始め、2009年（平成21年）にようやく本格的な開発に着手したわけです。

この装置の開発は、当初、ニンニクに絞りました。ニンニク生産農家の販売は重量単位であるため乾燥によって減量すると収益の低下となります。その点、新技術では高湿度貯蔵が可能で従来の単価より高く売れる。また、近年、中国産ニンニクなどが出回るなか、青森県産ニンニクを4〜7月頃の品薄の時期に全国出荷できれば、ニンニク生産農家の収入アップに寄与できる。そんな地元農業への思いがありました。そして、研究開発も終盤となり、マーケティング調査をしたところ、マーケット結果が出たのです。市場や量販店、農協、生産農家などにヒアリングをかけたところ、今やニンニクは氷温貯蔵によって通年販売が可能であり、新しい装置は必要ないというのです。皮肉なことに、自社商品が新商品販

売の妨げになってしまいました。

ところが、このマーケティング調査の結果が出る前に、ニンニクよりも他の食品のほうが効果が大きいということがわかったのです。弊社の顧客でもある長崎県の得意先から柑橘類の貯蔵の依頼があり、たまたま試しにデコボンに電場をかけたところ、糖度が向上し、酸度が減少しました。デコボンというのは「不知火」という品種の果物で、そのうち糖度13度以上、酸度が1度以下という基準をクリアしたものがデコボンと呼ぶことができますが、酸度を下げるのが非常に難しく、酸度の高いものは売れないため農家に返品されてしまいます。そんな課題もこの装置によって解決できるほか、長期貯蔵も可能となり、デコボンの長崎県での販売時期を従来の5月から7月まで延ばすことができます。こんなわけで、現在はデコボンの貯蔵に向けて、この装置のフィールド実証に備えているところです。

●ふるさと財団では、新たな技術や地域資源を用いた新商品開発に取り組む民間事業者を支援しています。



穴窯 焼成中
自分でつくった作品を穴窯で
焼くのが陶芸家の夢



穴窯 窯出し風景
いかに妻有焼特有の形や色
あいをつくり上げるかが課題

縄文文化の真髓が現代によみがえる 新たな焼き物ブランド「妻有焼」 つ ま り や き

～ 国宝をモチーフにした陶器づくりで地場産業を活性化～



国宝の火焰型土器

十日町市・株式会社夢妻有

新潟県十日町市の笹山遺跡から出土した火焰型土器が、平成11年に縄文土器として初めて国宝に指定された。これは新潟県の文化財として初の国宝指定でもあった。今、十日町市と株式会社夢妻有では、ふるさと財団の「新分野進出等アドバイザー派遣事業」(平成20、22年度事業)を活用して、故岡本太郎氏が絶賛したといわれる、この国宝の火焰型土器をモチーフにした新たな焼き物モデルの創出を目指している。

この河岸段丘の土を見て、「陶土(焼き物の原料にする土)として質量ともに適しているのではないかと最初に注目したのは、陶芸家の吉田明氏だった。吉田氏は平成18年に行われた「大地の芸術祭」に作品を出展した際に、妻有の土を「発見」し、妻有焼の制作を開始した。

「大地の芸術祭」は、越後妻有を舞台に平成12年から3年おきに開かれている国際芸術祭で、「里山と現代アートの融合」をテーマに、芸術

十日町市は、新潟県南西部の信濃川中流域に位置する。越後妻有と呼ばれる同市とその周辺地域は、日本有数の豪雪地帯として知られる。厳しい自然は豊かな水を生み出すことにもなり、信濃川流域に広がる河岸段丘は、ブランド米魚沼産コシヒカリの稲作地になっている。

河岸段丘は、縄文時代の遺跡の宝庫でもある。なかでも笹山遺跡からは、4500年前につくられた国宝の火焰型土器をはじめとする縄文土器が多数出土している。

縄文土器が眠る河岸段丘の土を使った新しい焼き物

によって地域の活性化を図ろうとする試みだ。この芸術祭を通して、吉田氏の「妻有焼構想」を知った新潟県や十日町市が支援に動いた。

越後妻有で採れる土を使ってつくった、縄文土器の特徴である装飾性や重厚感を生かした日用陶器、あるいは美術品、それが妻有焼であり、使う者、見る者に縄文文化の記憶を呼び起こす——そんな新しい焼き物をつくる試みが官民一体となって始まったのである。

3人のアドバイザーの助言で妻有焼の独自性を追求する

平成20年3月に、十日町市と共同で妻有焼の製造・販売を行う(株)夢妻有が設立された。十日町市は、ふるさと財団の「新分野進出等アドバイザー派遣事業」(平成20年度事業)の活用を決め、10月には、廃校になった小学校を改修してつくられた「妻有焼陶芸センター」が、事業の中核施設としてオープンする。ところが、そのわずか2か月後に妻有焼の提唱者だった吉田氏が急性心不全のため急逝した。

吉田氏の活動を早くから支援してきた夢妻有の樋熊猛取締役は、「さ

あこれからという矢先だっただけに、一時は途方に暮れました」という。

そのときアドバイザーの古川猛ふるさと往来クラブ副理事長に、「吉田さんが亡くなったのは残念だけれども、何としてもこの事業を成功させて、ここまでできた、といえるようにしよう、と励ましていただいた」と樋熊氏は振り返る。

以後、「焼きものとして成り立つには百年、二百年と時間がかかるので、ふるさととし、グリーンツーリズムの「特産品」として育てていく」という古川氏のアドバイスに従って事業の方向性を明確にしながら、妻有焼の試作を重ねていく。その過程で、平成22年度に、古川氏に加えて、華道家の須永有輝子氏とコンサルタントの政所利子氏をアドバイザーとして受け入れ、都合4回、次のようなテーマで指導を受けた。

●古川氏「妻有焼の陶土、釉薬、形などの現状と問題点、および販路開

拓の方法。

●須永氏「商品としての差別化戦略、ギャラリーでの陶芸展開催の提案。

●政所氏「妻有焼の定義の明確化、地元の観光戦略との連携について。

樋熊氏は、「アドバイザーの方には大変恵まりました」と話す。須永氏からは、「妻有の土味を大事にし、ああ、これは備前風だね、といわれ



信濃川流域の豊かな自然に囲まれた妻有焼陶芸センター

るような焼き物は絶対につくらないようにする」政所氏からも、「何万年という歴史を刻んだ土の温かみ、人間の遺伝子によって伝え続けられて

いるもの、それを焼き物として表現できたら既存製品との差別化が可能」とアドバイスされたという。

日本在駐の20数か国の外国大使館職員やその家族に生花や茶道を教授しているという須永氏からは、大使館を通じて海外に妻有焼を紹介することも可能だと提案されたという。

また、政所氏からは、マーケティング的な斬新な発想で教えられるこ

とが多かったという。

樋熊氏自身も、全国の窯業地を回って作風や陶土、焼成(作品を焼くこと)、釉薬の研究を重ねるとともに、ギャラリーとの交渉や業務用商品の販路開拓を行った。その結果、「まず縄文文化のストーリーを感じさせる妻有焼ならではの土(陶土)の完成を最優先させる」ことになった。

一般的に1230〜1250度で焼いた陶器は水が漏れたり、簡単に欠けたりしなくなる。それが焼き締めるという温度で、基本的にその温度に耐える土でなければならぬ。土の色も一種類だけではなく、黄土、赤土、黒土と複数揃える。その上で、妻有焼にふさわしい焼き上がりの色にしなければならぬ。妻有地域の土は耐火度が低いの、耐火度の高い土をどれだけ混ぜ合わせればいいのか、試行錯誤しながら土をつくっている段階だという。

このように、まだ基本となる土が完成していないが、妻有焼の販売はすでにされている。ただしいずれも「完成品」ではなく「試作品」という位置づけだ。今年に入って関東のある業者に試験的に業務用として陶器を納入したが、欠けやすいという

アドバイザー紹介

古川 猛 氏(ふるかわ・たけし)

NPO法人ふるさと往来クラブ副理事長、
東方通信社代表取締役編集長

雑誌記者、編集長を経て、1987年東方通信社、88年NPO法人ふるさと往来クラブを設立。地域経済活性化のためのメディア、月刊『コロンブス』を発行。町おこし、村おこしを通じてさまざまな特産品の開発やマーケティングを手がけてきた。「新分野進出アドバイザー」としては、2001年の長野県上田市の「十勇士の里シリーズ和菓子開発事業」にはじまり、「妻有焼陶芸センター運営事業」を含め9件の事業で協力を行っている。



須永有輝子 氏(すなが・ゆきこ)

大和流家元、国際珠算基金理事

日本橋(山口屋)4代目の4女として生まれる。早くから生花、茶道、和太鼓、日本舞踊などを学び、18歳から生花、茶道の家元代理指導に携わる。世界の人々が学べるようにわかりやすい大和流の生花、茶道の指導法を考案する。以降、アメリカ、オーストラリア、イギリスなどの世界各国から招かれ、生花、茶道を教授する。また、日本在駐の各国大使館で生花、茶道などの日本の伝統文化を教授する。



政所利子 氏(まんどころ・としこ)

株式会社玄代表取締役

PR誌編集長、コスチュームデザイナー、環境プランナーなどを経て、1988年株式会社玄を設立。東京浅草の「六区街の再生」などのまちづくり計画や、全国市町村の地域産業振興、商工業活性化のための調査・研究に携わる。1996年北区勤労者サービスセンター理事、2005年から東北文化学園大学客員教授。07年内閣府地域活性化伝道師、08年VISIT JAPAN 大使(10年10月に「YOKOSO! JAPAN 大使」より改名)、09年NPO法人さど理事、2010年NPO法人カントリー・ボッタークラブ理事長に就任。山形カロッツェリア研究会副代表、富山県酒・蒲鉾ブランド化のコンサルタント業務などを通して、各地方公共団体への協力を行っている。



事業体名 株式会社夢夢有

所在地 〒949-8545

新潟県十日町市新宮甲2289番地

電話 025-758-2502

代表者名 代表取締役 佐藤三代治

事業内容 陶器、陶土製造販売
陶芸教室・職人養成工房 随時受付
薪窯(穴窯・登窯)貸出

事業団体紹介

新技術・地域資源開発 人材活用支援事業 (旧・新分野進出等ア ドバイザー派遣事業) のご案内

ふるさと財団では、地域の中小企業等の伝統産業や地域資源を活用した事業の取組について、地方公共団体が専門家を派遣を要請する場合に、専門家(アドバイザー)を派遣します。

■お問い合わせは、〈ふるさと財団〉開発振興部開発振興課(TEL03-3263-5758)まで。詳しくはふるさと財団ホームページをご覧ください。

出の行方が注目される。

表れです」と樋熊氏は期待する。地域資源を生かした新たな産業創

は余っており、供給過多の状態だ。

地の前に陶土の産地になれます」

生計が立つ。そうなれば、焼き物産

タターが全部買い上げる。機械は

600万円くらいするが、それで1

キロ150円以上で売れる粘土がつ

くれる。つくった粘土をこのセン

ターが全部買い上げる。機械は

600万円くらいするが、それで1

キロ150円以上で売れる粘土がつ

妻有の陶土の販売を 地域産業の新たな核に

クレームがついた。樋熊氏は、「今年秋まで、遅くとも年内には、これが妻有焼だという焼き物を完成させたい」と話している。

「妻有焼陶芸センター」では、皿や茶碗などが展示販売されている。自分でロクロを回して焼き物をつく

てみたいという人のためには陶芸教室が開かれている。また、焼き物を焼くための穴窯、登窯が各1機、灯油窯2機が設置されており、東京や埼玉の陶芸教室に貸し出している。「都心では薪窯を焚くことはでき

ということだ。

「妻有焼の製造販売、施設貸しは

もちろんメインの仕事だが、妻有地

域の人に妻有地域から採れた土Ⅱ元

土から、粘土Ⅱ陶土をつくってもら

い、その陶土は全量同センターを通

して全国販売をして行く。

まず、妻有地域のたとえば定年退

職した人に、2カ月くらいここに研

修に来てもらって、こちらが指示す

る土の調査や配合で粘土をつくれる

ようになってもらう。それから自宅

に粘土をつくる機械を入れてもらえ

ば、雪が深いので高床式になってい

る家の下の農作業場でも十分粘土が

つくれる。つくった粘土をこのセン

ターが全部買い上げる。機械は

その一方で、窯業地で産出される陶

土が非常に少なくなっている。その

ため、他の窯業地の陶土Ⅱ粘土と差

別化できるものをつくれれば売れる状

態にある。

十日町市を中心とした妻有地域は、

江戸時代は越後縮、明治以降、大正・

昭和にかけては明石縮などの織物産

業のメッカとして、全国に名を馳せ

た。しかし、現在はピーク時の10分

の1以下の売上げだ。

その織物や米に代わって陶土の販

売を含めた妻有焼が、「これから十

日町のいちばんの産業になっていく。

1年2年では無理ですが、近い将来

必ずそうなると思っています。

十日町市が、観光交流課ではなく産

業振興課で取り組んでいるのもその



会社名 株式会社紀文 飛驒高山美術館
 代表者名 代表取締役 向井鉄也
 所在地 岐阜県高山市上岡本町 1-124-1
 主要事業 美術館
 HPアドレス <http://www.htm-museum.co.jp>

季節の花々が咲くガーデンからは、高山の町並みも一望できる。

美はトータルなものである という企業理念を基に

当館は飛驒高山に1997年開館した私立美術館です。19世紀末にヨーロッパで流行したアール・ヌーヴォー様式のガラス工芸を主に、その後のアール・デコ様式から現代ガラスまで、約1000点を収蔵し、約250点を常設展示しています。エミール・ガレやティファニーに代表されるアール・ヌーヴォー様式はガラス工芸だけでなく、家具や照明器具などのデザインにも取り入れられました。当館はこうした一つの時代様式を持つ装飾美術に焦点をあてて収集しているということで、日本では他に類を見ない装飾美術館と

地域貢献企業の会
 会員企業紹介

株式会社紀文 飛驒高山美術館

世界有数の文化施設と並び ミシュラン三ツ星を獲得

しての地位を確立しています。

また、北アルプスが一望できる丘に建つ当館は、オーナーの意志である、建築とランドスケープが一体となった「トータルな美」を作り上げることを目的に設計されました。建物は展示品を意識して設計し、シンボリックな展示品であるルネ・ラリックのガラスの噴水とリヒャルト・ルクシュの彫刻を、渡り廊下を挟んで対峙させています。展望ギャラリイでは、自然光の中でガラスの繊細な表現が楽しめるようになっていきます。インテリア展示室は、ルイ・マジョレル、エミール・ガレ、マッキントッシュ、ウィーン分離派それぞれの雰囲気伝えるため、各展示室を「部屋」として再現しています。'09年と'11年にはフランスのミシュラン社が発売した旅行ガイド『ミシュラングリーンガイドジャポン』で、世界有数の観光地や文化施設と並び、最高の三ツ星評価を受けました。

美術館の空間を活かした ミュージアム・ウエディング

展示室だけでなく、当館は国内外のガラス雑貨を集めたミュージアムショップや、本格的な料理やデザートが味わえるカフェ&レストランも併設しています。敷居が高いと思われがちな美術館にまずは足を運んでもらいたいという思いで、コンサートやイベント、夏のビアガーデンなど、様々な試みを行っています。その中でも特に今注目されている



1926年、パリのシャンゼリゼ・ショッピングアーケードに設置された、ルネ・ラリック作のガラスの噴水。

のが「ミュージアム・ウエディング」です。ガラスの噴水前、もしくはガーデンで行う挙式は、テノール歌手とピアノの生演奏が色を添え、シャガールの絵が飾られた「芸術の間」で行う披露宴では、一流シェフが手掛ける婚礼フルコースが振舞われます。「究極のおもてなし」の空間を提供するという当館のテーマを大切にしたミュージアム・ウエディングは、これからも広くお客様にご利用していただきたいと思います。

今も営み続ける日本最古の ショッピングセンター

真つ青な空に向かって伸びるヤシの木を見上げつつ、那覇を北上していくと、アメリカ人DJによる英語のラジオ番組に、英字の看板、多国籍レストランやショッピングが並ぶカラフルな景色。いよいよ国内では味わえない独特の異国情緒は本島中部でより色濃くなっています。

沖縄は長い歴史の中で、アメリカ世と呼ばれる時代がありました。1950年代、米統治時代を迎えた沖縄。特に、米政府のヘッドクォーターと隣接したコザ、ライカム（現・北中城村及び沖縄市）は、終戦直後の焼け野原が瞬く間に賑やか

地域貢献企業の会
会員企業紹介

株式会社プラザハウス

プラザハウスショッピングセンター ここからはじまった異文化との出会い

い付けに赴きます。セレクトショップの草分け的存在として、ファッションを舞台にした多国籍交流は、異文化をしなやかに受容し活用してきた。コザ気質のようなのが發揮されているような気がします。

未知の文化と出会う 純粋な喜び

そしてプラザハウスのもう一つの語り部は、沖縄初の本格広東料理店、月苑飯店です。復帰前後は激動する沖縄の行方を左右した世界の要人たちが出入りする歴史的舞台でもありました。初代料理人から受け継がれた秘伝のレシピ、また勤続40余年のスタッフのもてなしに魅せられ親子三代で通い続ける地元客も多くいらっしゃると思います。ノスタルジックに染まる夕陽色のタイルの壁、人々が寄り添って座るラウンドソファなど、内装も当時のまま、ひとときのスリッパに、時代の流れを実感できます。

米統治が終了して約40年。今日もここコザの街の中で、未知の文化と出会う純粋な喜びは、大切な歴史の遺産としてプラザハウスのDNAとして受け継がれています。アメリカの紳士淑女が謳歌した古き良き時代の面影の中、世界のモードへと扉を開くときめきは時代を超えてシンクロします。

文明開化の明治時代、日本に新しい色彩が舞い降りたような絢爛豪華な世変わり。たとえば南洋の島々にクレオール文化が誕生したような神秘性。社会政治の明暗を忘れてはならないものの、聞きなれぬ音楽に鼓動が高鳴り、見知らぬ品々に瞳が輝く高揚感、旅する人類の心に潜むロマン。それを是非ともここで感じとってください。



会社名 株式会社プラザハウス
代表者名 代表取締役社長 平良由乃
所在地 沖縄県沖縄市久保田 3-1-12
主要事業 プラザハウスショッピングセンター
HPアドレス <http://plazahouse.net/>
直営店 Roger's ARENA, JARDIN, PASSAGE, ECOLE 月苑飯店・ステーションナリーショップ クリック!
テナント ファッション・飲食店・エステティックサロン 他 40 店舗

今も威風堂々と営みが続いています。交わる国籍の垣塙、コザの歴史の一幕を語り継ぐ老舗です。
「ユニークな感動を」と掲げるコンセプトのもと、創業当時から変わらぬバイイングシステムを受け継ぎ、ショッピングで日々お客様をおもてなしするスタッフが直接欧州、米国へと商品を買



1954年創業当時の外観。時代を物語るような高級車に乗った人々の姿。

「地域再生人材相談事業」報告

ふるさと財団では、「地域再生人材相談事業」を平成20年度からの新規事業として立ち上げ、その1つとして「地域再生マネージャー等派遣による短期診断」を実施しています。

ここでは、平成23年2月に愛知県常滑市、宮崎県えびの市で実施した「短期派遣事業」をご紹介します。

愛知県常滑市

やきもので培った「技」を発信し、 更なる観光振興につなげる

平成23年2月3日(木)～5日(土)

●地域再生マネージャー

中島 淳

(株式会社カルチャーアットフォーシーズンズ代表)



視察風景（地元のお年寄りにお話を伺う）

【診断概要】

愛知県常滑市は陶器の生産で有名であり、陶器のまちとしての佇まいを残した「やきものの散歩道」を中心とした観光振興について、地域再生マネージャーが2泊3日の中で課題を整理し、地元の市長をはじめ、行政担当者や民間の皆さまと意見交換を行いながら、今後の観光資源の活用の方や外への効果的な発信方法について提案しました。

今回の診断では、まずは常滑焼という強力な地域資源を、地域外にPRしていくためのプロモーションの

在り方として、常滑焼を生み出してきた地域の職人たちの「技」を前面に打ち出して行くべきであり、歴史と風土が生み出した「常滑焼」の見せ方と特別な情緒のある資源「やきものの散歩道」をさらに磨き上げて発信していくという方向性を投げかけました。また、常滑市にとっての「お得意さま」を特定することの必要性・重要性が提示され、そのための方策について常滑市の皆さまと地域再生マネージャーとの間で活発な議論が交わされ、盛り上がる中で意見交換ならびに報告が終了しました。



器の使い方を提案したディスプレイ

具体的なプロジェクト(例)

1つ1つはアイデアかもしれませんが、「やってみよう」と本気で思った時、それはカタチを変えてでも実現され、人に伝わります。以下は、これからの取り組みを考える際のヒントですが、設計図でもあります。

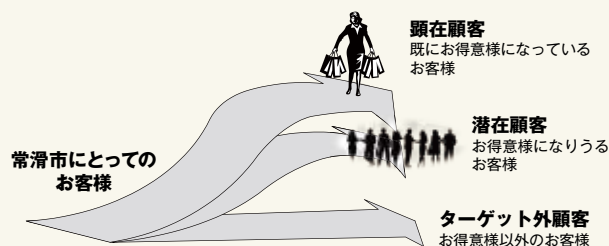
キーワードの5要素



レンガ色の煙突が立つ貴重な産地景観を維持する常滑。壁の塩害を防ぐコールドタール塗りのトタンはまちを黒で、道の壁は土管の茶色で特徴づける。これらの独自の景観を維持するには、そのものの保全修理・管理ではなく、新たな考え方や取り組みに挑むことこそが、産地が内から変わり、結果として守れるものと考えます。新しい取り組みはまちに新たに彩りをもたらします。

常滑市が目指すべき方向性

常滑市にとってのお客様は3種類に分けられます



宮崎県えびの市

エリアマネージメントで

京町温泉のエリア再生を目指す

平成23年2月23日(水)〜24日(木)

●地域再生マネージャー

奥村 玄

(株式会社GENプランニング代表)



歴史的な駅舎「えびの駅」

【診断概要】

えびの市は、京町温泉郷を中心とした観光地として、昭和50年代を境に団体客やビジネス客の激減により宿泊施設も減っています。平成22年に霧島ジオパークが日本ジオパークに認定を受け、それを機会に新たな観光振興施策展開を考えて行く上で、外部人材の活用（地域おこし協力隊、外部専門家の招へい）を検討しているため、地域再生マネージャーの短期診断を実施し、課題の整理と地域資源の見直しを実施しました。

今回の診断においては、地域再生マネージャーから「京町温泉のエリア再生の必要性」「駅の地域拠点としての活用の必要性」「ジオパーク



地元の田んぼの神様「たのかんざあ」

の観光資源としての方向性の検討」「地域おこし協力隊導入時の注意点等」という課題が指摘され、京町温泉のエリア再生という課題については、「総合的な町空間の再生」のため家並みの修景など面的な整備の必要性とまちづくりに係る地域住民、農家、学校、商店会、旅館など様々な主体が知恵を出し合うテーブルを用意し、議論を尽くしていける組織を構築する必要性など「総合的なエリアマネージメント」の視点を導入する必要があると提言されました。また、歴史的な駅舎を地域拠点にし、地域のいろいろな人が交差する場として活用するべきという提言がありました。

ました。ジオパークについては、観光資源という一面的な見方だけではなく、地質学、風土学、地元学といったアプローチが必要で、観光資源だけに留まらない底の深い活用をしていくべきと提言されました。最後に、地域おこし協力隊の導入を予定している当該地に対し外部人材の活用時点での注意点などマネージャーの経験を通した具体的な事例をご紹介し、説得力のある報告がなされました。

エリアマネージメントの視点

エリアマネージメントの視点を導入

「エリアマネージメント」とは・・・まちで活動するさまざまな人びとが、思いをつづにして、まちの出来事を運営管理していく組織的な取り組みです。

①総合的なまち空間の再生

住宅地に立地する特徴を活かし、落ち着いた家並みの佇まいを修景したり、川の景観を整え道の魅力化を図り回遊性を高めるなど、面的に整備を進める

②まちづくり組織の再生

観光協会に頼らず、地域住民、農家、学校、商店会、旅館など様々な主体が知恵を出し合えるテーブルを用意し、多様な視点から創造的な議論を展開する

③連携を重視した地域を大切に活動

地域のコミュニティ銭湯を基盤とした湯巡りや、地産地消から6次産業へ展開するダイナミックな活動の場とする

新刊紹介

産業の空洞化、加速する少子高齢化などにより地方の活力が低下する中、活性化に向けて地方の人材や地域資源を掘り起こし、磨きあげることが急務となつて

家を、最長3年間にわたって全国42市町村に派遣してきた。この結果、思いがけない人材が地域から発掘・育成され、また、地域に埋もれていた資源を活用した新しいビジネスも生まれつつある。そして、これらの取り組みにより高まった地域の魅力に惹かれて新しい人たちが移住

活躍し、総務省地域情報化アドバイザーも務める坪田知己氏。紹介されているのは、事業が実施された市町村のうちの12市町村。「大都市のニッチマーケットに食い込む」（産直による再生）、「地域の力を観光資源に」（観光による再生）、「人口減少時代のまちなか再生」（中心市街

ふるさと再生

坪田知己 著

架け橋を創る人たち

発行 株式会社 講談社
本体価格 1500円

いる。そのためには、人材や資源の目利

きができ、また、最前線のビジネス事情に精通し、地方の魅力を大きく開花させる外部の専門家の手助けが不可欠である。

財団法人地域総合整備財団（ふるさと財団）は、総務省と連携して、「地域再生マネージャー」と呼ばれる外部の専門

するようになった市町村も多い。

本書は、地方の人材や地域資源の魅力を引き出し、地域活性化への架け橋となつた地域再生マネージャーとそれぞれの地域に焦点をあて、地域再生の「成功の法則」を見いだそうとしている。

著者は、元日本経済新聞社記者として



地の活性化による再生」、「ヨソ者の知恵と情熱で地域資源を掘り起こす」（コミユニティビジネスによる再生）の4分野に分かれている。

地方自治体の職員や地域再生に携わる専門家はもとより、一般の方々や学生にも楽しめる読みものとなっている。

財団事業で支援された 地方都市再生プロジェクトが MIPIMで最優秀賞を受賞



MIPIM Awards 2011 未来プロジェクト部門最優秀賞杯

平成23年3月8日（火）から11日（金）（現地時間）にかけて、フランスのカンヌにて開催されたMIPIM（国際不動産投資・都市開発マーケット会議）に、日本からは私が建築家として参加した東京大学まちづくり大学院地方都市再生プロジェクトチーム（チームリーダー・西郷真理子）が出展。地方都市再開発プロジェクトである「Sustainable Urban Redevelopment」が、MIPIM Awards 2011において未来プロジェクト部門の最優秀賞を受賞しました。わが国における地方都市再生の手法を、国内の地方都市における具体的なプロジェクトを通じ

て提案したものです。1991年の開催以来、今年で21回目となりますが、日本からの応募作品が受賞するのは今回が初めてです。

プロジェクトは、ふるさと財団の「まちなか再生総合プロデュース事業」や「地域再生マネージャー事業」などの地域再生支援を得て立ち上がったものです。内容は緊急の課題である地方都市再生について、共通の概念を進めている地方5都市（高松市、山口市、長浜市、沼津市、大分市）の再生・再開発プロジェクトで、それぞれの風土のもとで育んできた伝統的なライフスタイルや地域の個性等のブランド化を通じた地域産業の活性化、地域社会の再生、地域の誇りや愛着の創出などを目指す取り組みを紹介。世界各国が同様の課題を抱えている中、日本の地方都市再生のモデルに期待が寄せられたことを確信しました。日本の地方都市が世界の注目を集め、人・情報が交流し、地域の活性化が一層促進されることが

望まれます。

受賞にあたっての審査員の評価ポイントを紹介

・全体が流れるようで無駄が全くない、優しいタッチの良質プロジェクトとしての建築性を高く評価した。また、このプロジェクトの成功の秘訣は4つか5つといういくつかの都市共通にどこへでも適応させることが出来るということであらかじめ目指して作られた適応性にある。

・大変綿密なりサーチのもとに考えられ提供された都市再開発の提案は都市だけでなく、その都市が所属する地域そのものの再開発を提言している。このプロジェクトの魅力は様々な地域の特性に併せることが可能なように設計されていることである。そして、持続性というコンセプトが建物だけではなくその地域の食文化をレストランで販売するところへまで配慮が行き届いている。



都市計画家
西郷真理子

・このプロジェクトは、大変自然に地域社会に浸透して、見る側の我々にも建物だけではなく、地域社会に役立つプロジェクトである。また、持続性と投資への社会責任、ビルのあり方はそれ自体が将来へのテーマである。

・環境を重視し、また再開発を試みたビルを公共スペースに巧みにインテグレートさせようとした取り組みは素晴らしい、これが持続可能な未来への開発として評価された。地域社会に密着してそれぞれの地域住民の声を反映したものであったことである。

・現代人はだれもがゆつたりとすることが出来る、落ちつける小さな空間のようなものを求めている。そしてまた我々の子供たちや次の世代が安心して暮らせる「ほんもの」を求めていることである。

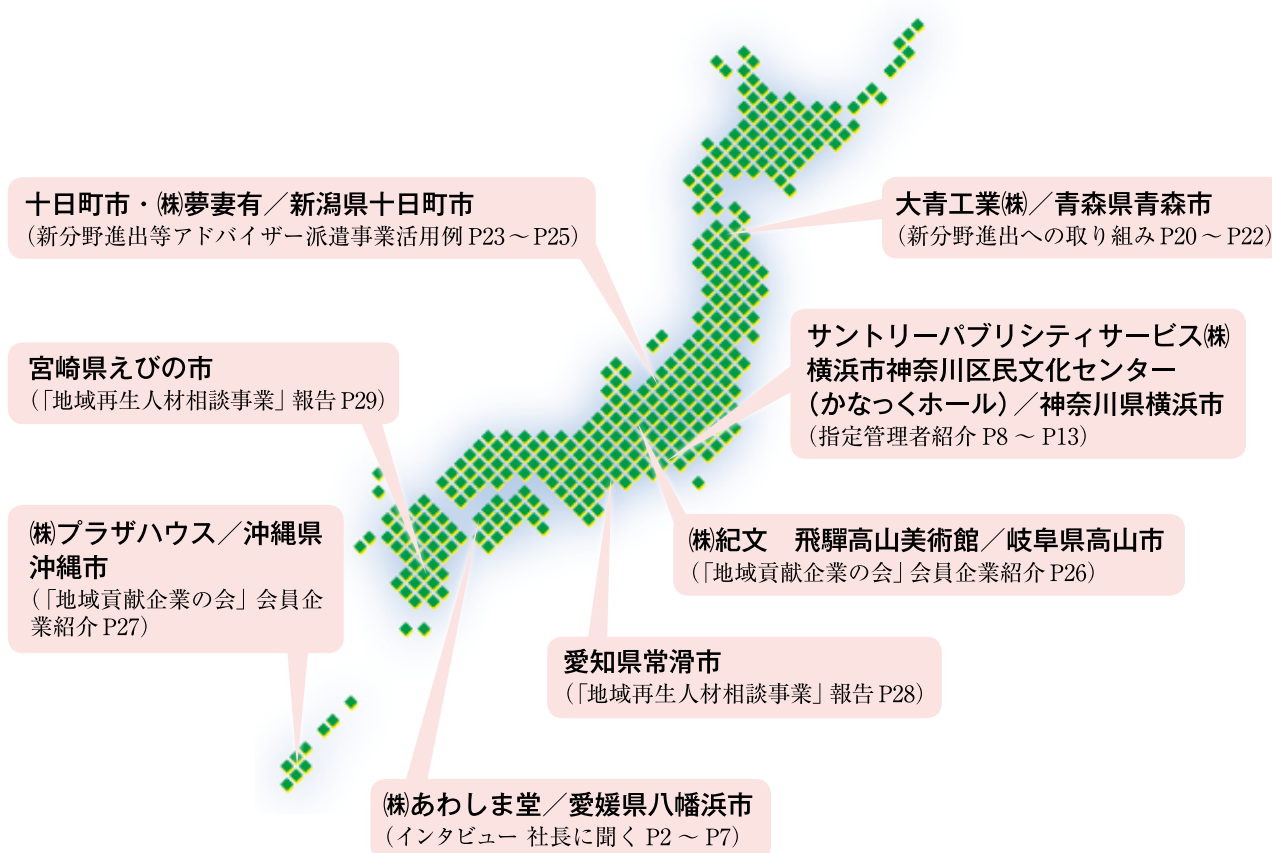


MIPIM Awards 2011 会場風景（前列右から8人目が西郷真理子氏）

財団日誌

4月 18日	ふるさと財団業務説明会	大分県
25日	ふるさと財団業務説明会	香川県
5月 19日～20日	自治体 PFI セミナー(基礎編)	JA 共済ビル(東京都)
24日	ふるさと財団業務説明会	中小企業会館(北海道)
25日	指定管理者シンポジウム	都道府県会館(東京都)
26日～27日	自治体 PFI セミナー(基礎編)	第二吉本ビルディング(大阪府)
30日	新・地域再生マネージャー事業 第1回アドバイザー会議	東京都

FURUSATO Vitalization 104 号 記事掲載関連 MAP



FURUSATO
Vitalization

June.2011
vol.104

平成 23 年 6 月 1 日発行

編集・発行 財団法人地域総合整備財団＜ふるさと財団＞
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-5-6
新平河町ビル

TEL.03 (3263) 5586

FAX.03 (3263) 5732

URL : <http://www.furusato-zaidan.or.jp/>

E-mail : urusato@urusato-zaidan.or.jp

編集協力 株式会社 双樹舎

◇本誌では、これからも地域づくりの参考となるさまざまな情報を紹介していきたいと考えております。
皆様のご意見・ご要望をお寄せください。



FURUSATO FOUNDATION

宝くじは、
地方自治体の公共事業等に
幅広く使われています。

NEW!

ワクワク、
続々。



宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。